



ポプラ社



子どもの絵本・本環境に関する調査結果報告

- ① 子どもの絵本・本環境の実態：
家庭・園・地域の図書館調査の知見から
- ② コロナ禍における子どもの絵本・本環境の実態を探る

高橋 翠（発達保育実践政策学センター特任助教）

midorit@p.u-tokyo.ac.jp

発表の概要

①子どもの絵本・本環境の実態： 家庭・園・地域の図書館調査の知見から

1. 「全国保育・幼児教育施設の絵本・本環境実態調査」

- ✓ 予算や蔵書数における施設差や小中学校との差

2. 「子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査」

- ✓ 地域の教育・保育施設との連携
- ✓ 子どもや保護者のアクセシビリティ（利用可能性）

3. 就学前の子どもをもつ保護者に対するウェブ調査

- ✓ 未就学児家庭の絵本・本環境格差

➤ 絵本・本環境の保障と
拡充のために多層的な
アプローチが必要であ
ることの証拠

➤ 今後の読書活動の推進
に向けた観点、ヒント

発表の概要（つづき）

②コロナ禍における子どもの絵本・本環境の実態を探る

1. 「新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査」

- ✓ 就学前の子どものマルチメディア環境の変化

2. 「子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査」

- ✓ 緊急事態宣言下における公立図書館・図書室の状況
- ✓ 現在の施設利用状況、読み聞かせ・おはなし会の開催状況

- 現在、子どもが絵本・本に出合う機会はどうなっているか？
- こうした状況下において絵本・本との出会いを保障していくために、図書館・図書室が課題としていることは？

子どもにとっての本・絵本の意味

子どもの発達に資するもの（機能性）

- 佐藤発表、および先行研究



a. 言語発達

- 言語音、語彙、文法等の獲得
- リテラシーの基盤形成



b. 社会性・情緒的発達

- “感情にまつわるリテラシー”の獲得



c. 読書への意欲・関心

- 就学前の読書習慣
→ それ以降の読書習慣へ

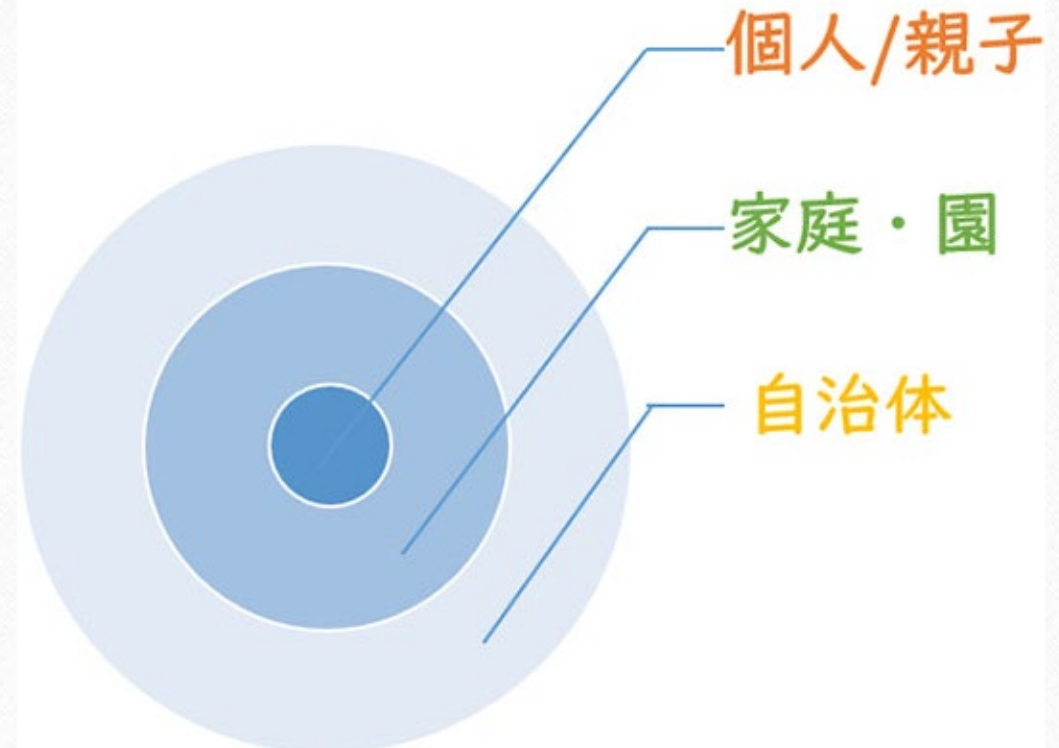
子どもの権利（人権）

- 若林発表から



子どもが本・絵本に出合う場

- 家庭
- 保育・幼児教育施設、学校
- 図書館等の近隣施設



調査のはじまり：

保育・幼児教育施設における絵本・本環境全国調査（2019）

- 背景：子どもが育つ場としての、乳幼児保育・教育の重要性の高まり
 - 保育・幼児教育の投資効果に関する議論と政策
 - 保育・幼児教育施設の急増・利用児童数増加
 - 通園開始年齢の低下、利用の長時間化
- 家庭以外に絵本・本に出合う場である保育・幼児教育施設の環境？
 - 様々な地域の、異なる施設形態を対象とした調査データはない

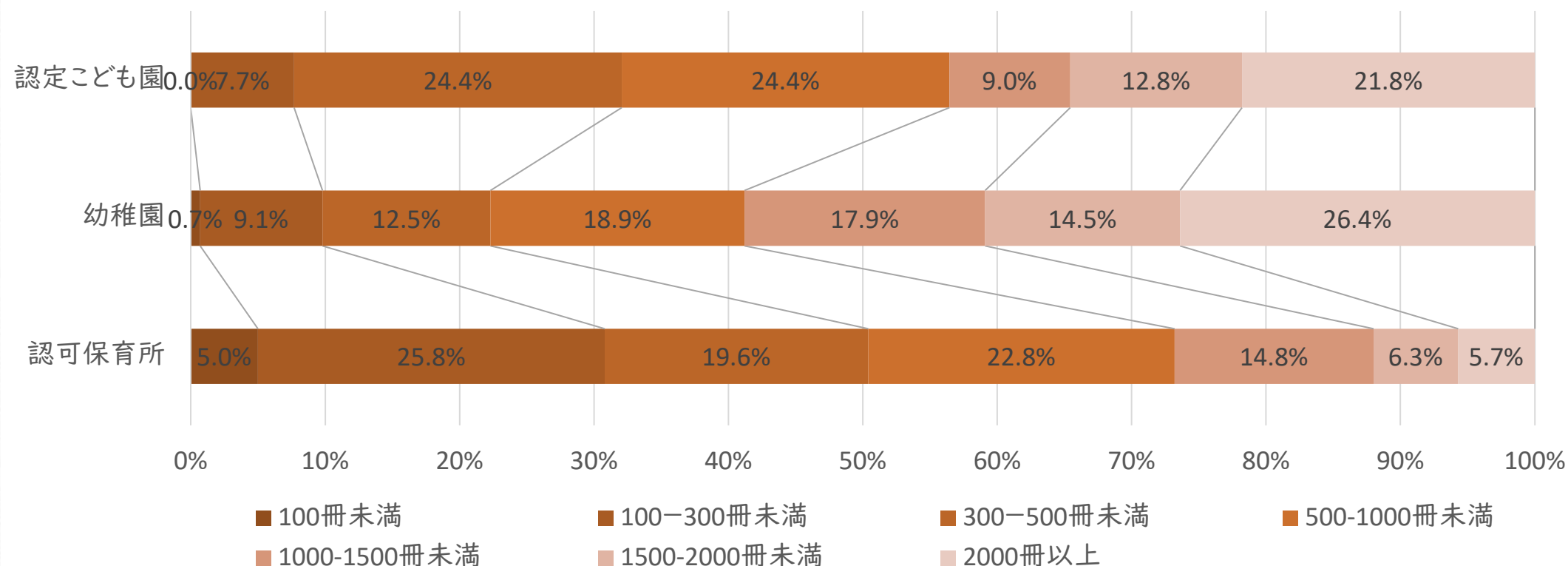
保育・幼児教育施設における絵本・本環境全国調査

- 全国の保育・幼児教育施設を対象に、絵本・本の蔵書数や年間予算、地域との連携等について尋ねる調査を実施
 - 実施期間2019年10月上旬～10月31日
 - 回収率3.1%（計1,042園／送付33,566園）

☆今回ご紹介するデータはCedepウェブサイトのポプラ社との共同研究ページ
“集計結果速報版「保育・幼児教育施設における『絵本』に関する調査」”に掲載しております。
http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/poplar/

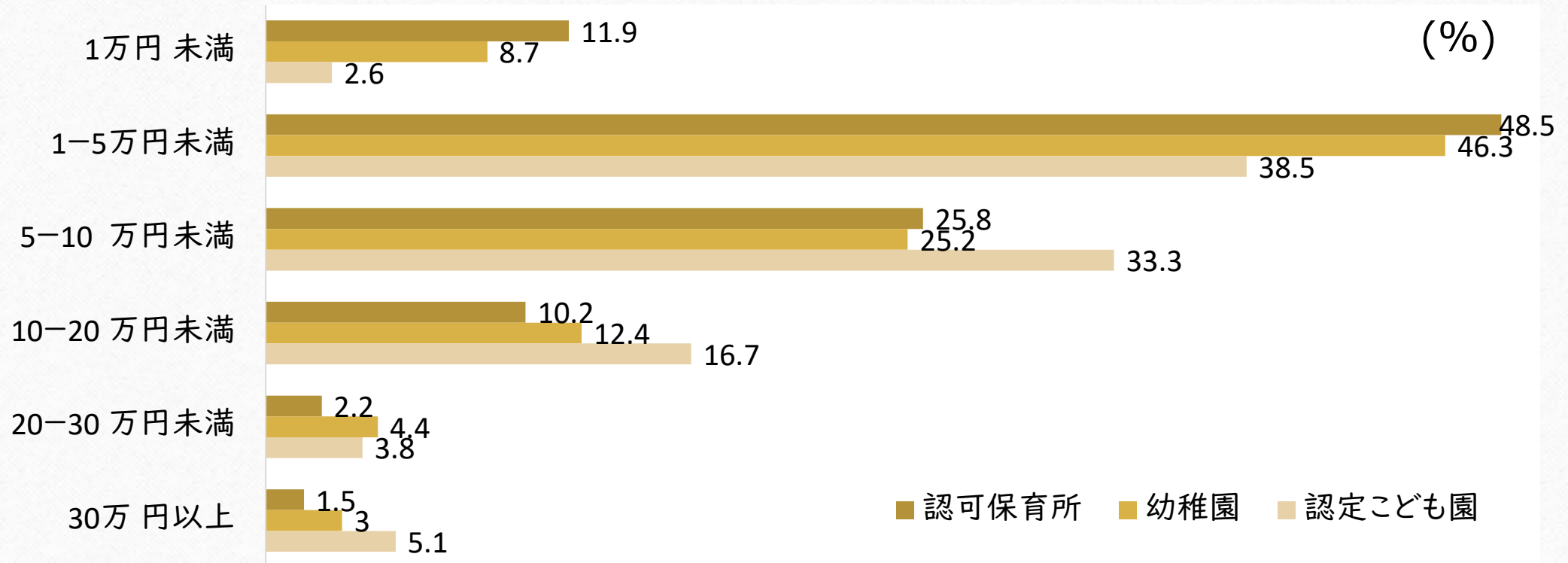
Q 園で所有している「絵本」のおおよその冊数を教えてください。(施設形態別)

- 300冊未満と回答があったのは、認可保育所では30.8%であったのに対して、幼稚園では9.8%、認定こども園では7.7%であり、施設形態によって蔵書数に差が見られた。
- 同じ施設形態でも、園による差が大きいこともわかった。



Q 1年間の「絵本」の平均購入予算を教えてください。(単一回答)

- 年間予算が5万円未満の施設は
認可保育所で60.4%、幼稚園で55.0%、認定こども園で41.1%となっていた



施設・学校	1施設あたりの 子ども人数 (単位:人)	1施設あたりの 平均蔵書数 (単位:冊)	子ども一人あたりの 平均蔵書数 (単位:冊)	1施設あたりの 年間予算の平均 (単位:円)	子ども一人あたりの 年間予算の平均 (単位:円)
認可保育所	93.2	718	7.7	59,055	615
幼稚園	119.1	1,465	12.3	71,661	583
認定こども園	132.2	1,311	9.9	76,012	641
小学校	322.7	10,335	32.0	498,000	1,543
中学校	314.8	11,579	36.8	587,000	1,865

※1 小学校・中学校の1施設あたり人数は学校基本調査(令和元年度)における児童・生徒数÷学校数で概算

※2 小学校・中学校の子ども一人あたり平均蔵書数・年間予算の平均値は、全国学校図書館協議会(2019)調査結果における

1校あたりの蔵書数および1校あたりの年間予算を、※1で概算した1校あたりの児童・生徒数で割ったもの

※3 認可保育所、幼稚園、認定こども園における蔵書数および子ども一人あたりの平均蔵書数は以下の方法で算出した概算値である:

蔵書数概算方法…「50冊未満」を25冊、「50-100冊未満」を75冊、「100-300冊未満」を150冊、「300-500冊未満」を400冊、「500-1000冊未満」を750冊、

「1000-1500冊未満」を1250冊、「1500-2000冊未満」を1750冊、「2000冊以上」については具体的な数値の記入がない場合には2000冊、ある場合には

記入された数値を用いた。子ども一人あたりの平均蔵書数計算方法…1施設あたりの平均蔵書数の概算値を、本調査において回答された施設人数の平均値で割ることで算出

※4 認可保育所、幼稚園、認定こども園における年間予算の平均および子ども一人あたりの年間予算の平均値は以下の方法で算出した概算値である:

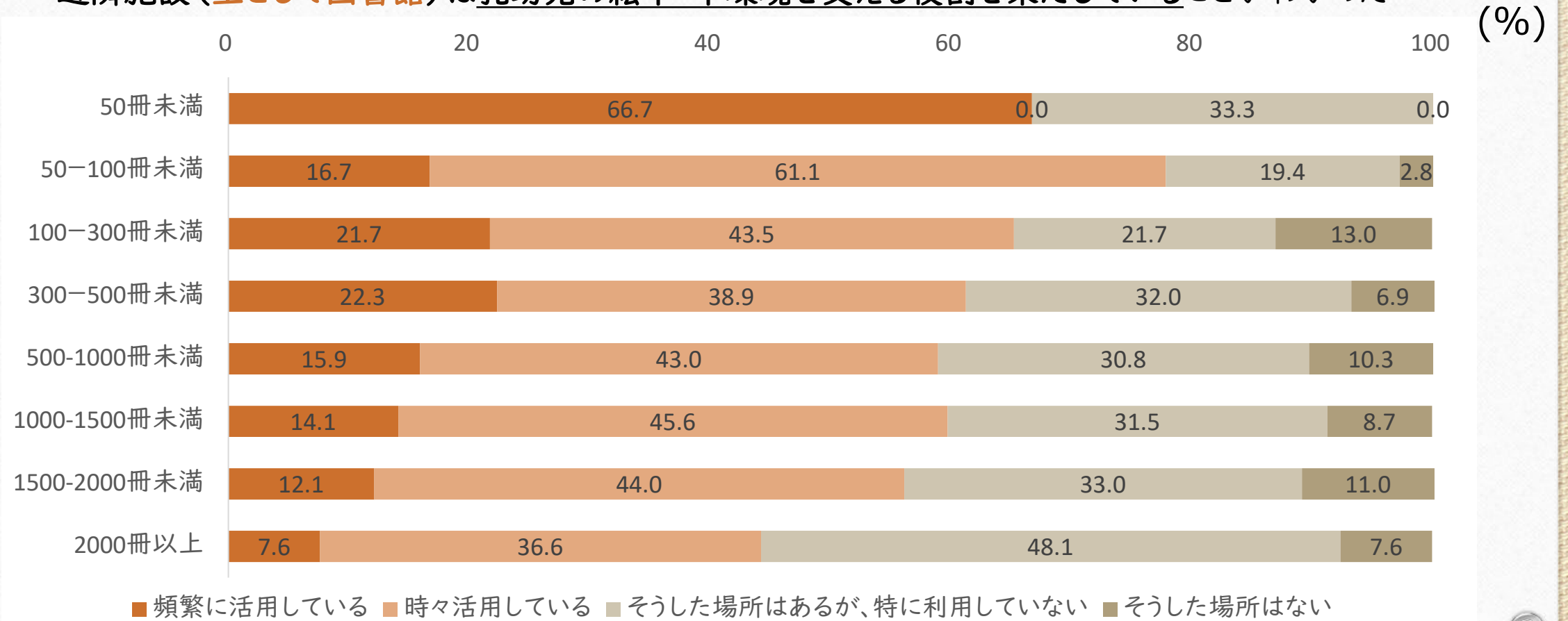
1施設あたりの年間予算の平均値概算方法…「1万円未満」を5,000円、「1-5万円未満」を25,000円、「5-10万円未満」を75,000円、

「10-20万円未満」を150,000円、「20-30万円未満」を250,000円、「30万円以上」を300,000円と置き換えて計算した。

子ども一人あたりの年間予算の平均値は、1施設当たりの年間予算の平均値を本調査において回答された施設人数の平均値で割ることで算出

☆蔵書数が少ない施設ほど、近隣施設（図書館）の絵本を活用する頻度が高い

- 蔵書数と近隣施設の活用頻度との関連を検討
- 近隣施設（**主として図書館**）は乳幼児の絵本・本環境を支える役割を果たしていることがわかった



子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査

- ① 教育・保育関連施設や諸団体とのかかわり
 - ② 子どもや保護者のアクセシビリティや昨年度の読書推進活動
 - ③ コロナ禍における図書館の利用状況（後述）を明らかにする目的で実施。
- 対象：全国の公立図書館・図書室（分館含む）※1
 - 回収率（11/17消印回答）：34.2%（1104 / 3299館・室）※2
 - 実施期間：2020年10月下旬～11月17日※3

※1 自治体の読書活動の推進に向けた取り組みとの関連を検討するため、公立施設のみを対象とした。

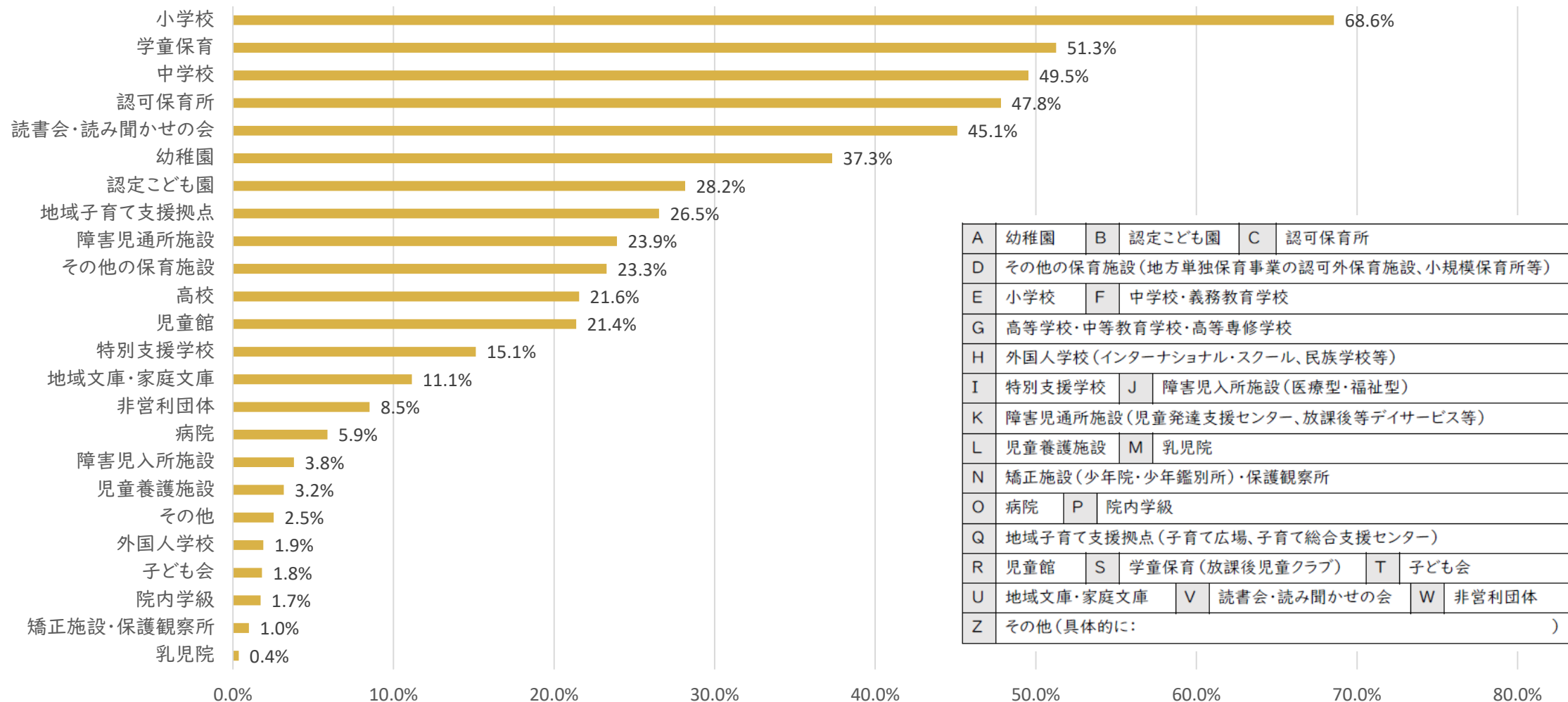
※2 一つの自治体が複数館・室の回答をまとめて1通で返送した場合もあり、それらは現時点では1館（中央図書館）としてカウントしている。
また18日以降が消印の回答も多数あり、最終的な値ではない。

※3 一部発送が遅くなった図書館等があったため、現在も回答を受け付けている。

①子どもの教育・保育関連施設・諸団体とのかかわり

1. 団体貸し出しを行った施設・諸団体

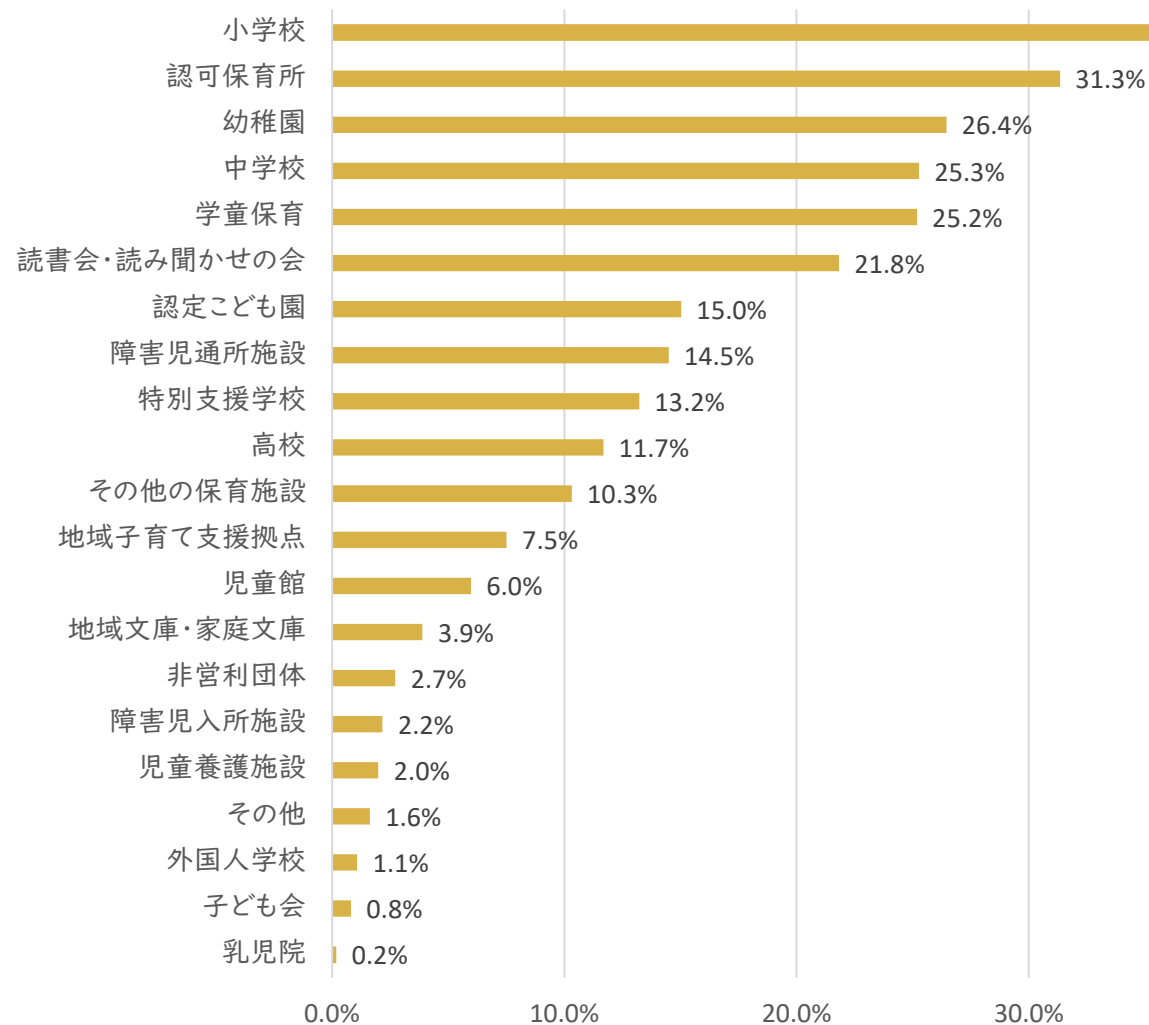
実施割合(%, 暫定的な分析の値)



①子どもの教育・保育関連施設・諸団体とのかかわり

2. 団体利用（図書館への利用者の訪問）

実施割合（％，暫定的な分析の値）



A	幼稚園	B	認定こども園	C	認可保育所
D	その他の保育施設（地方単独保育事業の認可外保育施設、小規模保育所等）				
E	小学校	F	中学校・義務教育学校		
G	高等学校・中等教育学校・高等専修学校				
H	外国人学校（インターナショナル・スクール、民族学校等）				
I	特別支援学校	J	障害児入所施設（医療型・福祉型）		
K	障害児通所施設（児童発達支援センター、放課後等デイサービス等）				
L	児童養護施設	M	乳児院		
N	地域子育て支援拠点（子育て広場、子育て総合支援センター）				
O	児童館	P	学童保育（放課後児童クラブ）	Q	子ども会
R	地域文庫・家庭文庫	S	読書会・読み聞かせの会	T	非営利団体
U	その他（具体的に： ）				

※団体利用は自由に行えるため統計を取っていないという回答もあった

子どもの教育・保育関連施設・諸団体とのかかわりにおける課題として挙げられていた事柄（自由記述）

- 貸出希望書籍の重複（特に、学校向け貸し出し）
- 対応する人員・時間の不足
- 連絡・調整の難しさ（行事への配慮、教師等の多忙化）
- 管轄部署が異なることによる、連携の難しさ
（横のつながりが少なく情報共有や意見交換の場が少ない）
- 職員の異動や雇い止めによる積み上げの難しさ
- 保育施設の急増（都市部の自治体）

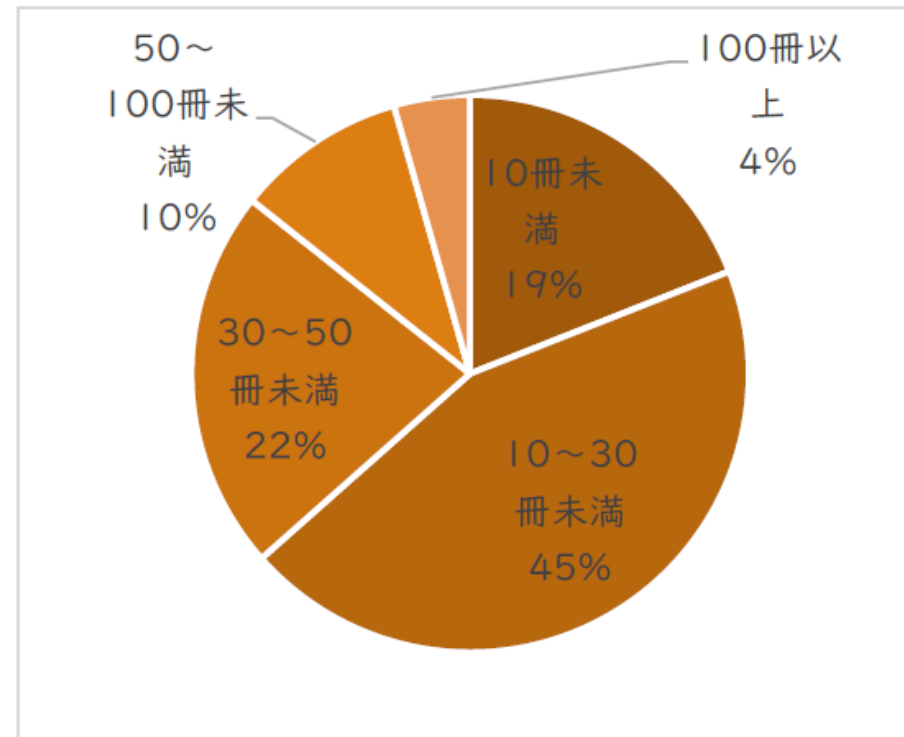
子どもの読書活動の推進に向けた施設間連携を促進するためのヒント
（自治体の計画、制度・政策）

家庭における絵本・本環境格差（30冊未満の家庭が約6割）

- 2020年4月30日から5月12日に未就学児の子どもをもつ保護者を対象に実施したウェブ調査

「最年少の子ども」が読むための絵本・本の冊数

選択肢	回答数	回答割合
A 10冊未満	508	19.0%
B 10～30冊未満	1190	44.4%
C 30～50冊未満	596	22.2%
D 50～100冊未満	266	9.9%
E 100冊以上	119	4.4%
総計	2679	100.0%



☆地域の図書館・図書室は、園だけでなく、家庭による子どもの絵本・本環境の違いを補償する役割も果たす

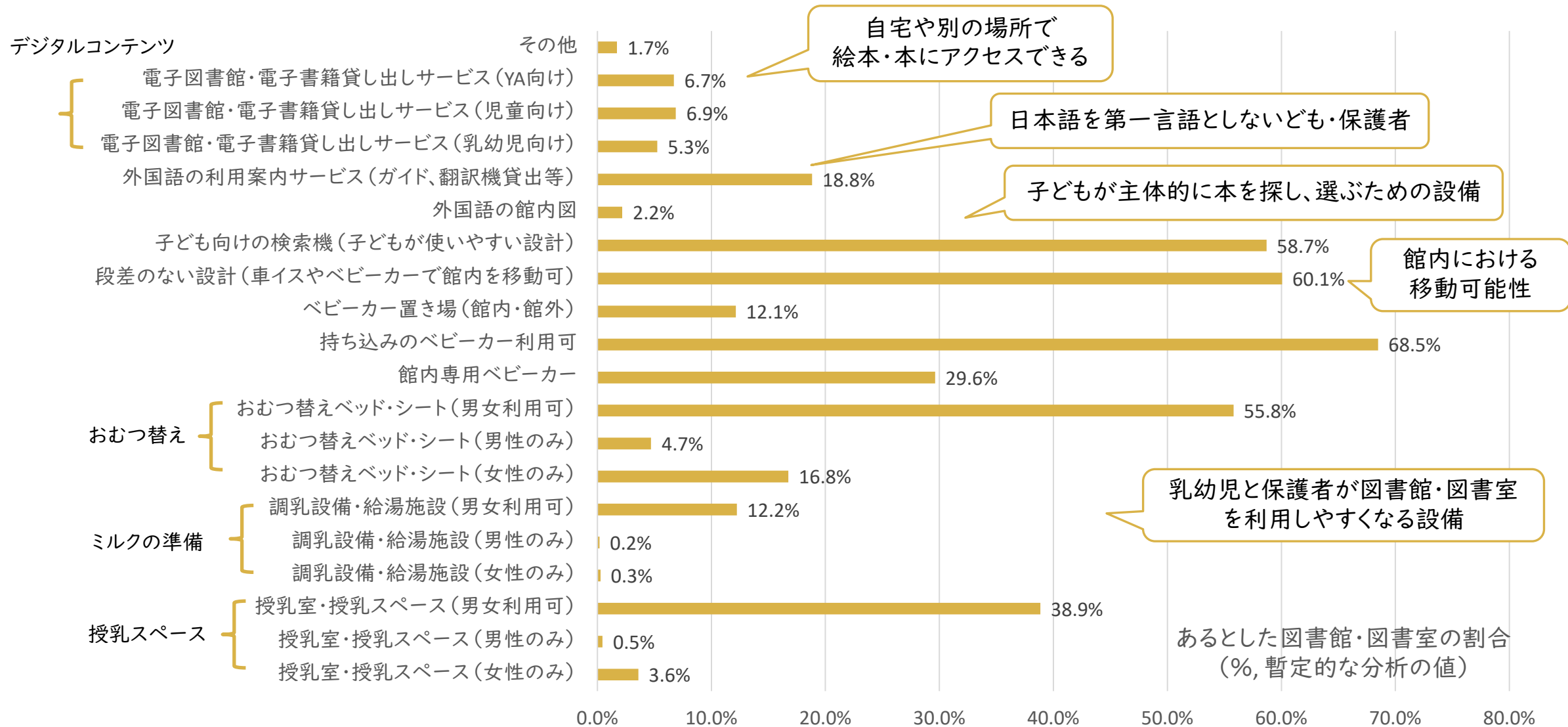
②子どもや保護者のアクセシビリティ

- 公立図書館・図書室の環境を検討する際の3つのポイント

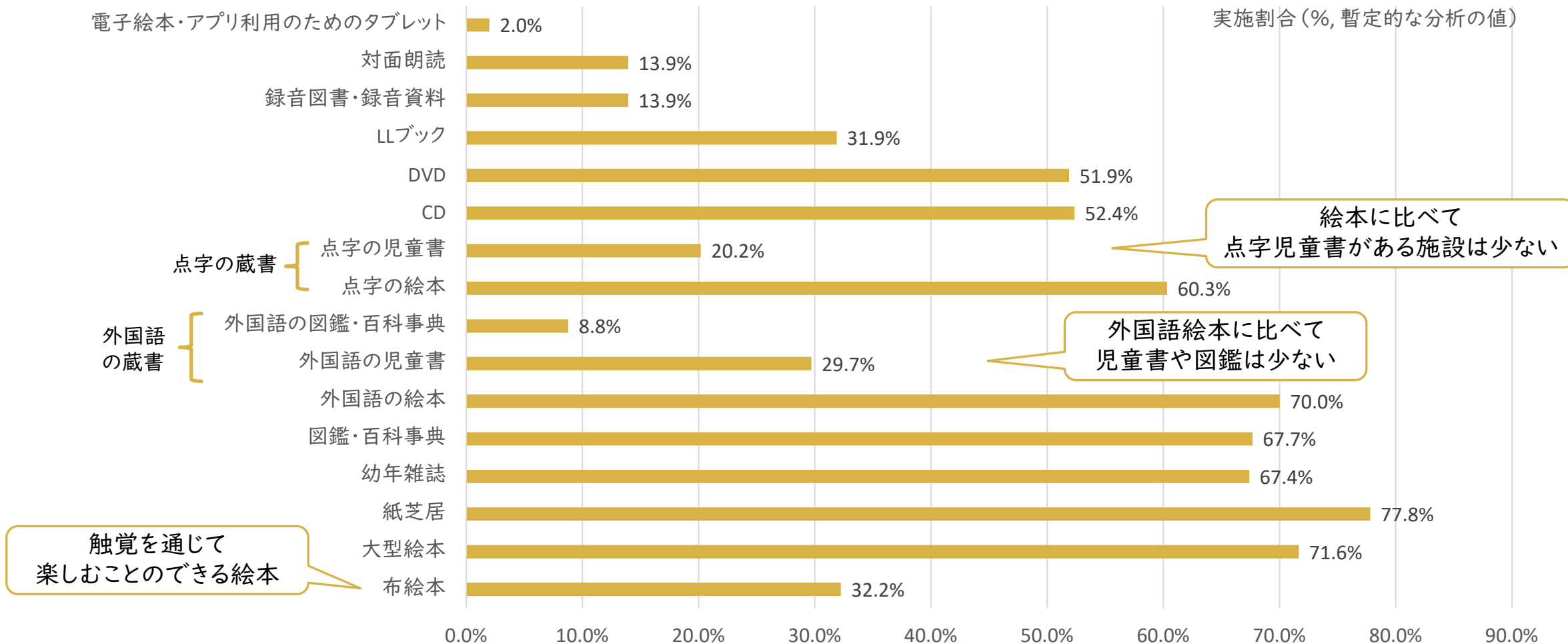
1. 利用可能性（アクセシビリティ, Accessibility）
2. 多様性（ダイバーシティ, Diversity）
&包摂性（インクルージョン, Inclusion）
3. 子どもの主体性（エージェンシー, Agency）

- 日本の図書館・図書室が、多様な家庭で育つ多様な子どもたちの本・絵本との出会いのニーズを包摂・保障するものになっているか
- 今後こうした多様なニーズに対応していくために、特に重要となる点

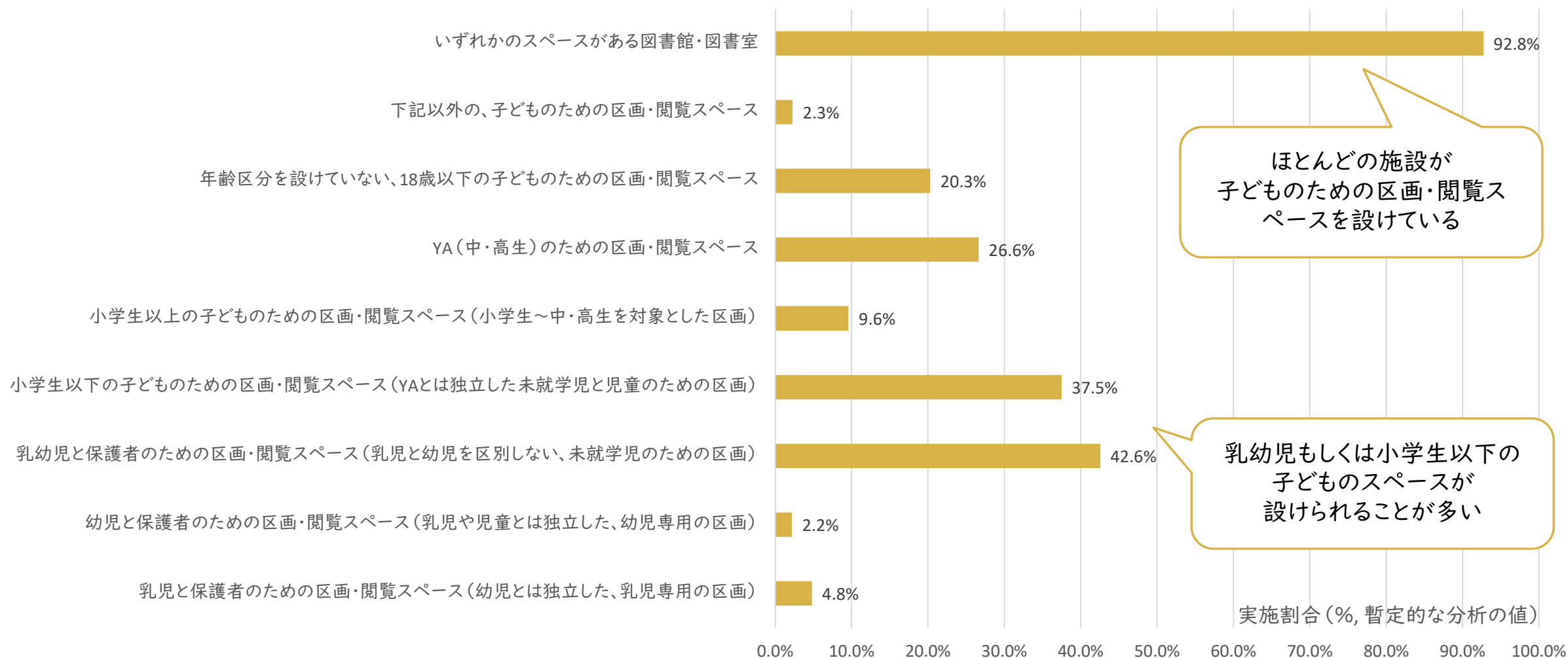
子どもや保護者を対象とした設備・サービス



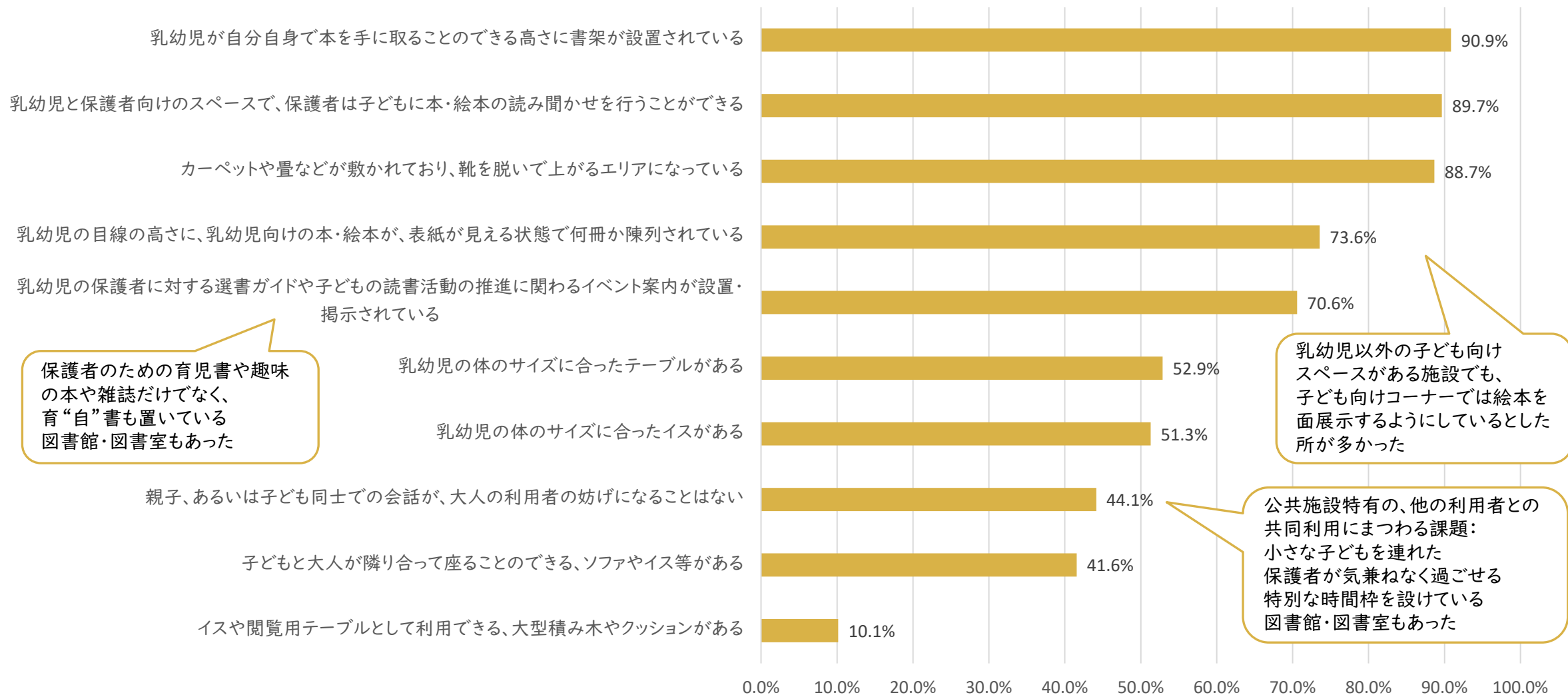
乳幼児（0歳～6歳）およびその保護者』を対象とした蔵書・物品、サービスがある施設の割合



子ども向けの区画・閲覧スペースがある図書館・図書室



乳幼児向けの区画・閲覧スペースがある場合 (N=503) の環境構成



子ども向け区画・閲覧スペースの具体例

- 図書館・図書室の子ども向けコーナーの写真と説明をメールで送っていただくよう依頼
- 現在300施設ほどご送付いただいた（ありがとうございました!!）
- 今後、写真を整理して種類別&工夫の観点別に整理したものを発表予定
- レイアウトや環境構成の工夫や取り組み事例のご紹介
 1. 利用可能性（アクセシビリティ, Accessibility）
 2. 多様性（ダイバーシティ, Diversity）&包摂性（インクルージョン, Inclusion）
 3. 子どもの主体性（エージェンシー, Agency）を高める様々なヒント

【安芸太田町立図書館】（広島県安芸太田町）

- 乳児と保護者向けのコーナー、乳幼児と保護者向けのコーナー
 - 乳幼児図書室は廊下を隔てて別室になっている。絵本の部屋になっているので、利用者の年齢制限はないが、入り口側から奥が乳幼児スペースとして活用されている。



【菊池市中央図書館】(熊本県菊池市)

- ・ 乳幼児(赤ちゃん)、小学生以下の子ども、YAコーナーがある
- ・ 保護者にとっても居心地の良い場所、居場所になっている



- ・ 乳幼児と保護者のための区画・閲覧スペース(乳児と幼児は区別しない)は、赤ちゃんと保護者のために赤ちゃん絵本、子育てに関連する本を中心に置いています。
- ・ 低めのテーブルと椅子、クッション、ぬいぐるみ、布絵本などを置いています。(現在は感染予防のためテーブルのみ)
- ・ 冬は床暖房が入ります。

【兵庫県立図書館】（兵庫県明石市）

- 18歳以下の子どもと保護者のスペース:親子読書室（兵庫県立図書館大閲覧室内）
- 季節の壁飾りで居心地のよい空間を作っている



【郡山市中央図書館 こども図書館】（福島県郡山市）

- 子ども向けの装飾や飾りつけがされている



【守谷中央図書館】（茨城県守谷市）

- ・ 小学生以下の子どものための区画・閲覧スペース
- ・ 児童フロアが3階建ての図書館のうち1階を占める（子どもだけのフロアを設けている）
- ・ おはなしのへや・絵本コーナー・児童書コーナーの順に配置



【新見市立中央図書館】（岡山県新見市）

- 乳幼児の子どもと保護者のためのスペース。色々な姿勢や位置、人々の組み合わせで利用できる



【菊池市中央図書館】(熊本県菊池市)

- 小学生以下の子どものためのスペース



「こんなギモンありませんか？」
図書館は本を楽しむための場所じゃない！
あなたがいつも疑問に思うことを解決してみませんか？
お手伝いします!!気軽に図書館の人に声をかけてね！」
子ども向けレファレンスサービス

【厚木市立中央図書館】（神奈川県厚木市） YAコーナー 科学的な興味関心を喚起する特集展示



【宇都宮市立東図書館】（栃木県宇都宮市）

- YAコーナー：児童架と一般架の間に位置し、児童書と一般書を混合
- 進路に関する資料やライトノベルも配架（多様なニーズへの対応）



【菊池市中央図書館】（熊本県菊池市）

- YAの子どものためのスペース
- 奥まったところにあり、子どもから大人へと移行しつつある子どものニーズに対応している



- 子どもコーナーからも行けるようになっています。
- 当館ではティーンズコーナーと呼んでいます。
- ティーンズ向けの図書（一般書と児童書から選書）とコミックを置いています。
- ソファやテーブルを置いてくつろげるスペースになっています。

②コロナ禍における 子どもの絵本・本環境の実態を探る

- 現在、子どもが絵本・本に出合う機会はどうなっているか？
- こうした状況下において絵本・本との出会いを保障していくために、図書館・図書室が課題としていることは？
 - 「新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査」
 - 「子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査」

就学前の子どもをもつ保護者を対象とした調査にみる 子どものマルチメディア環境の変化

「新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査」

- 緊急事態宣言発令期間中に、乳幼児の保護者を対象としたウェブアンケートを実施
- 就学前の子ども（0～6歳）をもつ保護者の回答2,679件を分析対象とした
- 何がわかった？
 1. 緊急事態宣言下で、読書時間や読み聞かせ時間が増えた家庭が多い
（それ以上にスクリーン・タイムは増加）
 2. 緊急事態宣言下に、子どもの手にする絵本・本の冊数が
「やや増えた・増えた」とする家庭が多い
 3. 緊急事態宣言下に、子どもの手にする絵本・本が増えた理由・減った理由
 - 図書館にアクセスできないと、利用する絵本・本が減る子どもが多くいる
（子どもの読書環境における図書館の役割）

☆今回ご紹介するデータは下記ページ「保護者調査報告書vol.1（基本統計量）」に掲載しております。

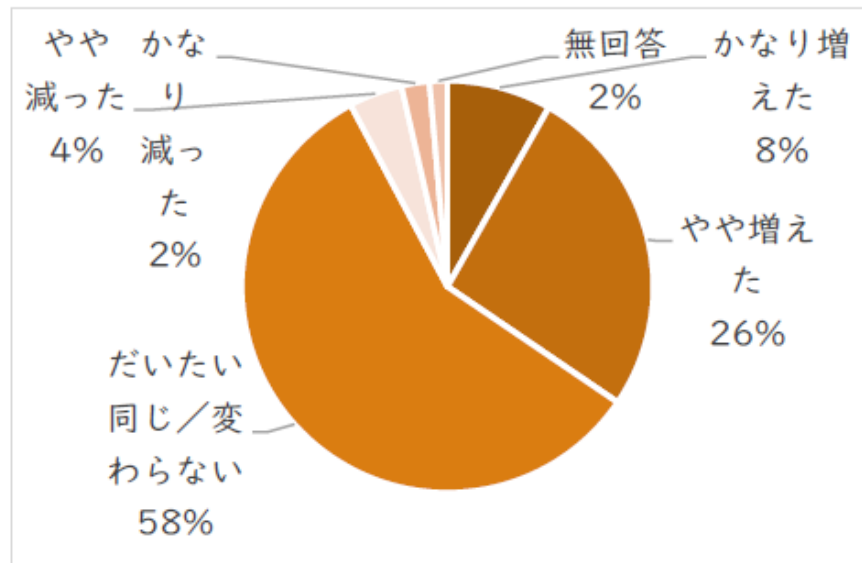
http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/covid-19study/

緊急事態宣言下で、読書時間や読み聞かせ時間が増えた家庭が多い

調査内容3：子どもの生活環境の変化

1. 新型コロナウイルスの流行前と比べて、現在の「最年少のお子さん」の室内で行うそれぞれの活動は、それぞれどのくらい変化しましたか？[A] 読書：紙や電子ペーパーの本・絵本を用いて]（任意項目）

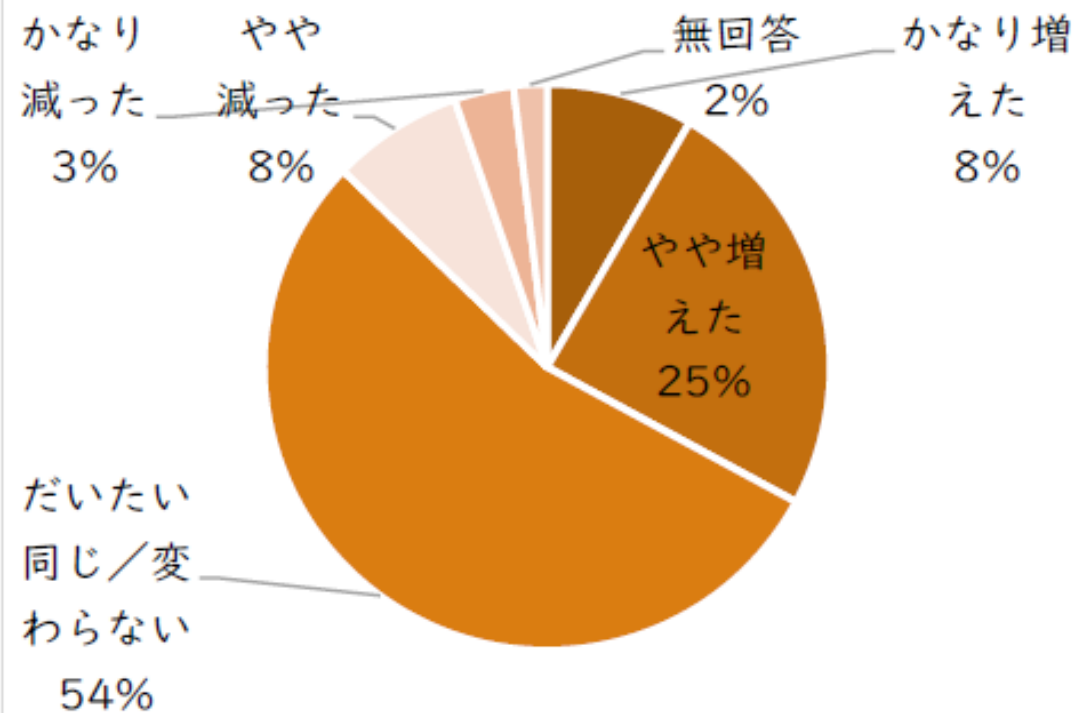
選択肢	回答数	回答割合
かなり増えた	221	8.2%
やや増えた	704	26.3%
だいたい同じ／変わらない	1546	57.7%
やや減った	112	4.2%
かなり減った	59	2.2%
無回答	37	1.4%
総計	2679	100.0%



緊急事態宣言下で、読書時間や読み聞かせ時間が増えた家庭が多い

7. (1の続き) [G] 絵本・本の読み聞かせ] (任意項目)

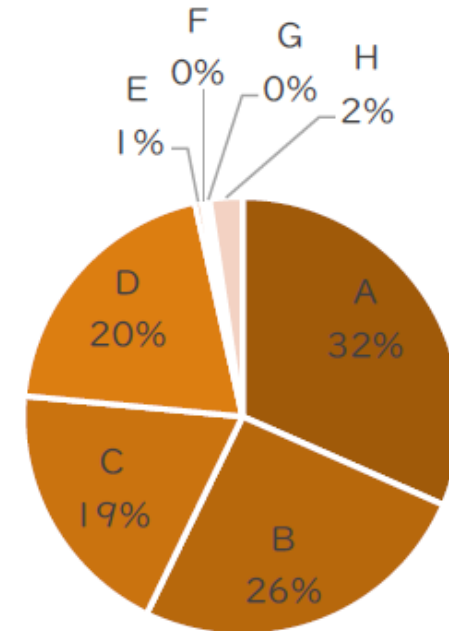
選択肢	回答数	回答割合
かなり増えた	226	8.4%
やや増えた	656	24.5%
だいたい同じ／変わらない	1454	54.3%
やや減った	201	7.5%
かなり減った	92	3.4%
無回答	50	1.9%
総計	2679	100.0%



(それ以上にスクリーン・タイムは増加)

10. 新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べて、現在の「最年少のお子さん」が家庭で過ごす時間帯にスクリーン(テレビ、スマホ、タブレット、ゲーム画面、パソコン)を見る時間は「1日あたり」どのくらい増減しましたか？

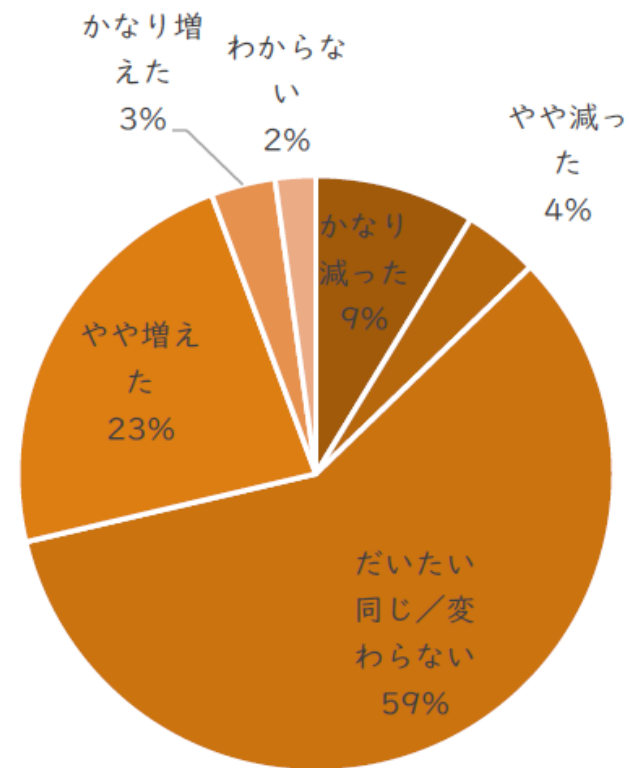
選択肢	回答数	回答割合
A 大幅に増えた(プラス2時間以上)	846	31.6%
B かなり増えた(プラス1時間~2時間未満)	687	25.6%
C やや増えた(プラス30分~1時間未満)	516	19.3%
D だいたい同じ/変わらない	535	20.0%
E やや減った(マイナス30分~1時間未満)	14	0.5%
F かなり減った(マイナス1時間~2時間未満)	12	0.4%
G 大幅に減った(マイナス2時間以上)	6	0.2%
H わからない	63	2.4%
総計	2679	100.0%



緊急事態宣言下で、子どもの手にする絵本・本の冊数が 「やや増えた・増えた」とする家庭が多い

12. 新型コロナウイルス感染症の流行以前と比べて、ここ2週間のあなたの「最年少のお子さん」が新しく手にした絵本・本※の数に変化はありましたか？

選択肢	回答数	回答割合
かなり減った	232	8.7%
やや減った	111	4.1%
だいたい同じ／変わらない	1569	58.6%
やや増えた	615	23.0%
かなり増えた	93	3.5%
わからない	59	2.2%
総計	2679	100.0%



緊急事態宣言下で、子どもの手にする絵本・本が増えた理由・減った理由

13.12で「増えた」「減った」と答えた方：それはなぜですか？理由を具体的にご記入ください。

- 増えた理由：在宅時間が増えたことにより、室内で外遊び以外の活動を行うため、また、家庭にある本を読み飽きてしまったが図書館で借りることができなかったために、購入する本を増やしたという回答が多かった。
- 減った理由：図書館が利用できなくなったり、外出の自粛や書店やショッピングモール等の休業によって本を買いに行けなくなったりしたことが理由として多く回答されていた。

公立図書館・図書室調査結果から

- 緊急事態宣言下において、貸し出しサービスが利用できないことがあった図書館・図書室は全体の88.2%
- 現在も入館者の人数制限を行っている図書館・図書室は17.1%
- 閲覧スペースが利用できない図書館・図書室は14.6%、
閲覧スペースの人数制限を行っている図書館・図書室は56.1%
専用・優先スペースが利用できない図書館・図書室は7.8%
館内滞在時間に目安を設けている場合もあった(60分以内等)
- 乳幼児コーナーではクッションや椅子、マットを撤去しているという報告もあった
(反対に、消毒が容易になるような素材を上敷いたという報告も)

館内における感染症対策の工夫

【習志野市立新習志野図書館】

(千葉県習志野市)

小学生以下の子どものためのコーナー



館内における感染症対策の工夫

【厚木市立中央図書館】
(神奈川県厚木市)

子どもの本のフロア



【相模原市立相模大野図書館】
(神奈川県相模原市)

YAの子どものためのコーナー



読み聞かせ・おはなし会の実施状況

- 読み聞かせ・おはなし会の実施状況について回答した図書館・図書室（N=1024）
- 約7割が対面実施を再開している
- ただし、再開している場合でも予約制や人数制限を行っているとしていた図書館・図書室が多かった
- 開催時間を短くしている場合もあった

状況	割合
休止中	32.6%
対面で実施	67.6%
動画や教材を作成して提供	1.8%

※重複回答があるため合計が100%にならない

図書館・図書室担当者から コロナ禍での課題として挙げられたこと

- 感染症対策関連での業務負荷の増加（消毒、入館者管理等）
- 感染症対策費用が生じ、その分、書籍購入費用が少なくなっている
- 感染症対策をしながら、イベントをどのように運営すればよいか
- イベントを再開してもよいのか
（警戒レベルに応じて中止するか判断している図書館・図書室もあった）
- 募集をどのくらい積極的に行ってもよいものか
- 利用者間での考え方の違い（マスク着用や私語）をどうすればよいのか
- 子どもの利用者が減っている（また減るような措置をせざるを得ない）
ため、今後が心配である

本報告のまとめ

① 子どもの絵本・本環境の実態：

家庭・園・地域の図書館調査の知見から

- 子どもの絵本・本環境を多層的に捉えていくことの重要性
- 公立図書館・図書室の役割、工夫と多様なニーズに対応していく際の課題

② コロナ禍における子どもの絵本・本環境の実態を探る

- 子どもの絵本・本環境の変化の実態と各図書館・図書室の工夫
- コロナ禍における様々な課題

調査実施メンバー

保育・幼児教育施設における絵本・本環境全国調査

監修・実施

- ・ 秋田喜代美（東京大学大学院教育学研究科長・教育学部長 教授）
- ・ 遠藤利彦（東京大学大学院教育学研究科
附属発達保育実践政策学センター長 教授）
- ・ 野澤祥子（同附属 発達保育実践政策学センター 教授）
- ・ 高橋翠（同附属 発達保育実践政策学センター 特任助教）
- ・ 佐久間路子（白梅学園大学 教授）
- ・ 菅井洋子（川村学園女子大学 教授）
- ・ 仲本未央（白梅学園大学 教授）
- ・ 唐音啓（東京大学大学院教育学研究科・博士課程）
- ・ 松田恭子（株式会社ポプラ社）
- ・ 花立 健（株式会社ポプラ社）

分析協力

- ・ 北條大樹
（東京大学大学院教育学研究科博士課程・日本学術振興会特別研究員
DC1）
- ・ 村井咲月（東京大学教育学部 学部学生）
- ・ 福地綾音（東京大学教育学部 学部学生）
- ・ 菅原 まり（東京大学教育学部 学部学生）

回答にご協力いただきました保育・幼児教育施設の皆様、
保護者の皆様、公立図書館・図書室の関係者の皆様に
心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症流行に伴う 乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査

監修・実施

- ・ 秋田喜代美（東京大学大学院教育学研究科長・教育学部長 教授）
- ・ 遠藤利彦（東京大学大学院教育学研究科
附属発達保育実践政策学センター長 教授）
- ・ 浅井 幸子 （同附属 発達保育実践政策学センター副センター長 准教授）
- ・ 野澤祥子（同附属 発達保育実践政策学センター 准教授）
- ・ 高橋翠（同附属 発達保育実践政策学センター 特任助教）
- ・ 淀川裕美（同附属 発達保育実践政策学センター 准教授）
- ・ 新屋 裕太 （同附属 発達保育実践政策学センター 特任助教）
- ・ 佐藤 賢輔 （同附属 発達保育実践政策学センター 特任助教）
- ・ 西田 季里 （同附属 発達保育実践政策学センター 特任助教）

子どもの読書環境と公立図書館の役割に関する調査

監修・実施

- ・ 秋田喜代美（東京大学大学院教育学研究科長・教育学部長 教授）
- ・ 野澤祥子（同附属 発達保育実践政策学センター 教授）
- ・ 高橋翠（同附属 発達保育実践政策学センター 特任助教）
- ・ 菅井洋子（川村学園女子大学 教授）
- ・ 松田恭子（株式会社ポプラ社）
- ・ 花立 健（株式会社ポプラ社）
- ・ 松本 麻依子（株式会社ポプラ社）
- ・ 齋木小太郎（株式会社ポプラ社）
- ・ 上野 萌（株式会社ポプラ社）
- ・ 池田紀子（株式会社ポプラ社）
- ・ 横田 亮介（株式会社ポプラ社）

実施補助・協力

出水雅子／松浦和代／宮澤那緒／向出歩穂／藤井千尋／
松枝真理子／松枝華子／藤井達也／高橋葉子